

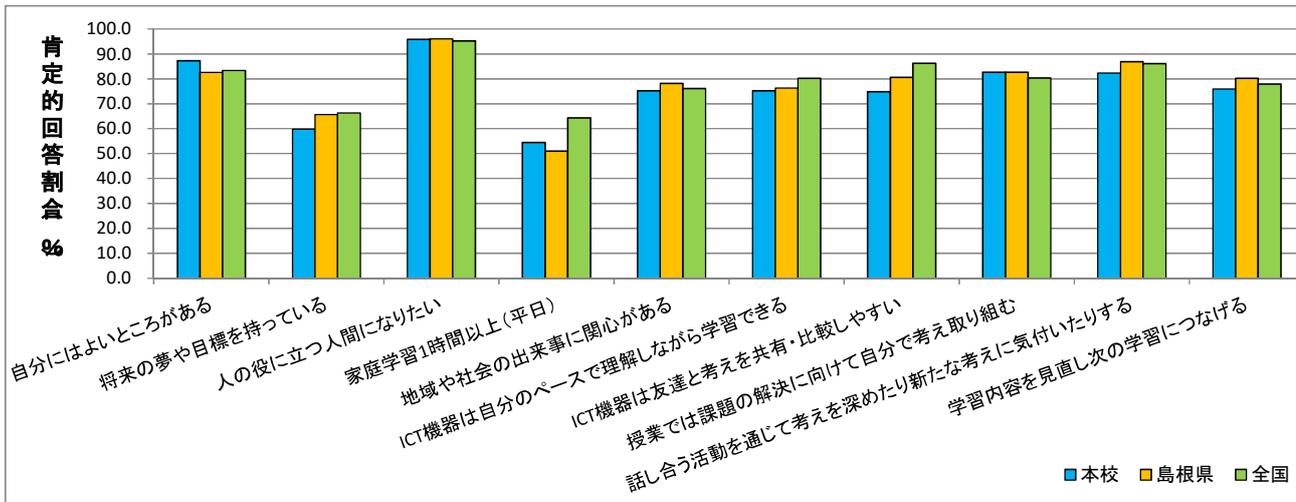
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
国語	○表現技法、行書の知識についてよく理解できており、知識及び技能の正答率が高い。 ○単元の終末で、学んだことを表現する時間を設けたことで、昨年度県学調で課題が見られた「書くこと」にやや改善が見られる。 ●他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることに課題がある。 ●文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がある。	・日常的に人の意見を聞いて、自分の意見をまとめる機会を増やす。 ・図表を取り入れ、自分の伝えたいことを表現する活動を取り入れる。
数学	○一度学習した内容の定着度は高い。特に、図形領域の図形の基礎・証明では、全国平均より高い正答率である。 ●数と式の領域では、基本的な計算はできているが、目的に応じて式変形することや文字式を使って説明することに課題がある。	・計算は、概ねできていることから、身の回りの事象について文字式を使って説明することの必要性を感じられるような授業の工夫をする。

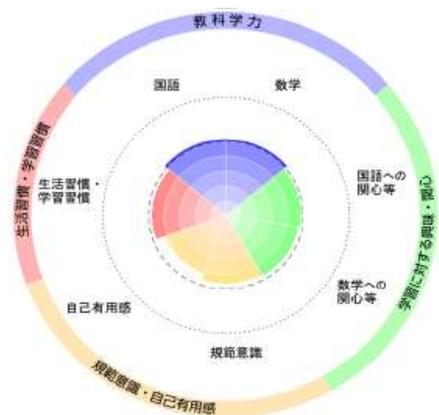
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
質問紙	○自分の長所を認識し、自己肯定感が高いことが分かる。また、新聞を購読するなど、家庭の教育に対する意識が高いと言える。 ○数学の有用感を感じさせることができている。また、英語における書く活動が充実している。 ●ICTの活用スキルが全体的に低く、ICTを活用して考えを深めたり、他者と意見を共有したり比べたりすることに課題がある。	・体験的な活動について振り返ったり、課題を整理したりする場面を意図的に設定し、発表したり話し合ったりする活動を通して考えを深める機会を増やす。 ・教職員のICT研修やタブレットの使い方を学習する場を作り、各教科の学習や総合的な学習でICTを活用する機会を増やす。

(3)質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・スリンプルプログラムの活動を通して、関わり合いの場面を増やし、特定の友達以外との関係も構築できるようにする。また、授業内での「こころほっとトーク」の活動を増やし、生徒自身が考えを述べる機会を増やす。

【受検者数】  
262 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。